

厚生労働科研「医療安全地域加算等による医療経済・医療安全上の影響の検証と効率的かつ効果的な体制構築に向けた研究」 静岡県立静岡がんセンター 「医療安全相互ラウンド」

質問

(1) ピアレビュー/医療安全連携の仕組み・概要

(2) (年度ごとに) 実施したこと：過去数年間程度(可能な範囲で) - 今年度の予定も - 効果的・効率的に実施する工夫もあれば

(3) ピアレビュー/連携での指摘・助言等を得て、自身の医療機関で、具体的に実施した改善活動など

* (4) その実施した活動によって、安全になったかどうかの評価の方法の検討

* (5) 実施した活動に伴う費用の項目の検討

- ピアレビュー/医療安全連携に要した時間なども含めて

- 得られた成果の経済的評価(例：避けられた事故の費用)

回答

ピアレビューでは、当院は私立大学病院のグループに属しています。訪問の組み合わせが発表されてから、まず訪問日程の打ち合わせをします。自施設の参加者の日程、相手方の日程が合う日を調整しますが、非常に限られてしまいます。

次に事前に自己評価表の記載、確認事項の記載があり、お互いに訪問する施設について見学したい部署、確認したい体制やマニュアルなどなど具体的に考え、用意していきます。

「指摘しあう」というより、「参考にしあう」という考え方だと思います。自施設では課題と考える点を、訪問する施設においてはどのようにしているのか、対策や管理体制、マニュアルを参考にさせていただくために訪問しています。

スケジュール

◎訪問する日程の打ち合わせ。(2023年は相手方とメールにて5月から打ち合わせ開始)

事前に自己評価表を記載し相手方病院に送付、確認。

確認事項表を記載し相手方病院に送付、確認。

さらに「当日確認事項表」を送付して、確認したい事項について連絡。

訪問したい部署についても事前に連絡。

訪問の実施。

相互訪問の報告書を記載。

報告書を事務局に送付。

○2023 年度 大阪医科薬科大学病院

8月31日（木）静岡がんセンター→大阪医科薬科大学病院

9月7日（木）大阪医科薬科大学病院→静岡がんセンター（医師1名、薬剤師2名、看護師2名、放射線技師1名 臨床工学技士1名、事務1名）

・指摘をうけて改善した点

インスリン使用時に冷蔵庫・引き出し等に専用シリンジの使用を促す注意喚起がなかった。
→薬剤部が注意喚起するシールを作成し、病棟薬剤師がすべての病棟の適切な場所に貼付した。注意喚起したことについて周知した。

・評価：インスリン注射時に専用シリンジを使用しなかったというインシデントはこれまで報告されていない。しかし、今後も注視していく。

・活動に伴う費用：テプラによるシールの作成。病院薬剤師による貼付。（薬剤師の人的費用）

○2022 年度 関西医科大学

10月6日（木）静岡がんセンター→関西医大訪問（医師2名、薬剤師2名、看護師1名、放射線技師1名 臨床工学技士1名、事務1名）

10月14日（金）関西医大→静岡がんセンター訪問

・指摘をうけて改善した点

投与後の要観察薬が抗菌薬と輸血製剤に限られている。

→抗がん剤、造影剤についても投与後に観察していたが、マニュアルに記載されていなかったため、マニュアルに記載し、改めて周知した。

・評価：抗がん剤については化学療法センターからのインシデント報告（主に血管外漏出や点滴速度間違いなど）を確認する。

造影剤については中央診療（CT検査）からのインシデント報告（主に血管外漏出など）を確認する。

・活動に伴う費用：マニュアルの改定と周知。（ほぼ費用はかかっていない）

○2021 年度 金沢医科大学

新型コロナウイルス感染症の影響で相互訪問は実施せず、書類の交換のみ。

○2020 年度 聖マリアンナ医科大学

新型コロナウイルス感染症の影響で相互訪問は実施せず、書類の交換のみ。

○2019 年度 東邦大学医療センター大森病院

2019 年 11 月 8 日（金）東邦大学→静岡がんセンター

2019 年 12 月 20 日（金）静岡がんセンター→東邦大学（医師 4 名 薬剤師 2 名 看護師 2 名 放射線技師 1 名 臨床工学技士 1 名）

・指摘をうけて改善した点

CVC の認定制度の整備について検討しているか。

→すでに検討を開始しており、準備を進めていた。その後、2023 年 2 月 1 日から正式に認定を開始した。

・評価：より安全な CVC 体制の構築。

・活動に伴う費用：CVC 認定医制度についての書類作成。（作成した医師、事務の person 費）

CVC に関する e-ラーニングの作成（スライドを作成した医師の person 費）

院内で視聴するための環境整備（システム関係者の person 費）

対象となる医師の電子カルテからの抽出。

認定証の作成。

○ピアレビューのために施設を訪問する出張に伴う、旅費や費用も必要になります。

○すべての事例において、医療の質・安全管理室が関わっているため、その person 費が考えられます。